



管理運営計画市民委員会 市民ホールかわら版

第1回「市民参加」～みんなで作る、みんなのホール～

7月22日、小田原市の大会議室にて、第1回市民ホール管理運営計画市民委員会が行われました。第1回は市民委員31名、(女性9名、男性22名)、市の事務局スタッフ12名、その他の事務局スタッフ3名、市民ホール管理運営計画専門委員会から三ツ山委員の、合計47名が参加しました。昨年度に行われた市民ホール基本計画市民検討委員会から引続き、本年度は管理運営計画について、4回にわたり市民の皆さんと検討を行います。

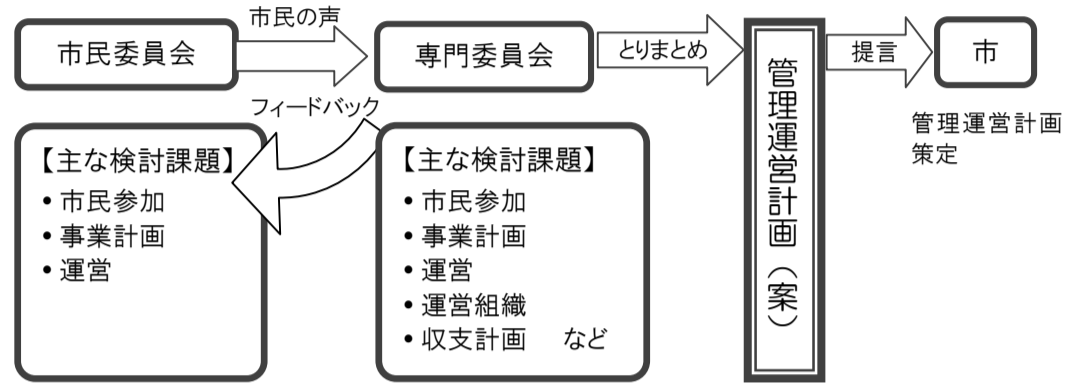
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成28年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成22年度に基本構想、23年度に基本計画を策定しました。

24年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会は、様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



公立文化施設への市民参画について ～市民参加の形態～

全国の施設では、様々な市民参加の方法や事例が取り入れられています。

右記は全国のホールで実践されているものを中心に、市民参加の手法を示したもので、基本計画でも同様に分類しています。

小田原市の市民ホールでは、どのような市民参加を行っていくのかを具体的に考えながら検討を行いました。

鑑賞者としての参加	◎ホールの事業を多くの市民が鑑賞することで、ホールに経済的な循環が生まれ、事業の質の向上や施設の有効活動へと繋がります。	事業企画・推進役としての参加	◎市民自らが、ニーズにあった事業の企画・運営・実践を行います。 ◎養成講座や育成事業の実施など、施設から活動を仕掛け人材を育成していくことが求められます。
参加型事業への参加	◎ホールの創作する事業やワークショップに、市民が出演者やスタッフとして参加します。	施設の管理運営者としての参加	◎市民参加の発展した形として、施設運営を市民組織が自ら担う事例も全国に出てきています。
運営への参加	◎市民ボランティアとして運営に参加する事例も多くみられます。基本的には、ホールが主催する事業の運営補助として参加するという形です。 ◎舞台技術などの専門性が要求される裏方業務を市民が担う事例もあります。	評価への参加	◎市の文化政策などを評価するものから、ホール基本理念に対しての施設評価、施設の管理運営を評価するものなどがあります。 ◎専門家などによる評価と合わせて、市民によって評価を行う機会を設けていきます。

発表概要

1 班



市民の中から人材を掘り起こし市民ホールに集結させ、ホールを拠点とした活動を広げていくことが提案されました。

- ◆小田原市には、文化に対して多様な方面で様々な人材がいる。現在、埋もれている人材を掘り起こし結集させる。
- ◆小田原文化活動ハンドブックのようなものを作成し、活動が行える場所や文化団体の情報をデータベースにし、市民ホールに集結させる。
- ◆舞台技術の講座等を行い、プロとして関われる人材を育成していく。
- ◆ホール併設のカフェを「チャレンジショップ」とし、団体に数年間運営させた後に独立させる。
- ◆文化活動応援補助金制度をつくる。
- ◆お祭りなど、気づかぬうちに参加している社会的な芸術活動がある。

2 班



これから新しく活動をはじめていくにあたり、既存の歴史ある活動との関係などをつくっていく必要があることが課題としてあげられました。

- ◆鑑賞に関して、友の会のような会員制制度を導入する。
- ◆情報発信の方法が統一されていないので、一箇所(市民ホール)に集約できるようにする。ホールの完成前から計画を進める。
- ◆中高生のボランティアを育成する。
- ◆駅前に看板を設置し、情報の伝達に努める。
- ◆ホール責任者に、やる気のある人物を登用する。
- ◆市民がホールの評価を定期的に行うシステムを構築する。
- ◆今までの市民会館は利用料金が高く、制約も多かった。市民が利用しやすい施設となるように。

3 班



商店街など、まち全体や既存施設との連携を強化し、ホール内に留まらず、広い視野をもった施設展開をしていくことが求められました。

- ◆子ども達に質の高い催しものを観せられる事業を。
- ◆近隣の美術館などと提携し、定期的に質の高い美術展を行う。
- ◆子ども達が参加できるような企画を行う。
- ◆ホール休館日にも自由にスペースが利用できるようにする。(運営は市民が行う)
- ◆子ども達を元気づけ、夢を育むような事業を行う。
- ◆レセプションとして運営の補助を行う。
- ◆ホールだけでなく、商店街など近隣の店舗や施設を含め、まち全体で施設の運営にあたっていきたい。
- ◆管理運営は、知識を有する専門家に任せたい。
- ◆劇場法について理解し、あたらしい市民ホールの計画を作る必要がある。

★★★三ツ山専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

- ◆横浜市では、ボランティア活動を「サポーター活動」と言っています。サポーターは施設ごとに登録し、横浜市民ギャラリーあざみ野には約200名のアートサポーターがいます。イベント時だけでなく、日頃からどう有機的に活動していくかが課題となっています。
- ◆「全ての市民」と抽象的にいうのではなく、「子ども、障がい者、シルバー世代」等に分け、それぞれにどう働きかけていくかが、市民ホールにとってひとつのキーワードになると思います。
- ◆ホールの開館直後は華々しいですが、10年経った時に閉古鳥が鳴いているようでは、市民にとって必要な建物とは言えません。人が集まり、市民が必要としている施設となることが大切です。

- ◆ここ10～20年ほどで、「自らのやりたいことをやる」のではなく「何が必要なのか」という観点から考えられる市民の方々が増えてきたように感じています。鑑賞者としての参加も含め、市民の「学びの場」となることが重要です。
- ◆事業が終わった後に、きちんとフィードバックする場が必要です。そのためには、施設側が積極的に働きかけていく必要があります。

【三ツ山 一志 氏 プロフィール】
横浜市民ギャラリーあざみ野館長兼横浜市民ギャラリー館長
昨年度の基本計画策定から引続き、管理運営計画専門委員を務める。子どもや障がい者がアートに触れる機会の創出に取組むとともに、造形指導にも携わる。

【三ツ山氏コーディネイト事業】 ◎参加者募集中◎

子ども向け美術ワークショップ 「おだわら.ゴドモ.アート」

8月19日(日)小田原市民会館
「カッティングシートが生み出す
いろいろなカタチ」

9月1日(土)小田原地下街
「カラーテープアート@おだわら」

ワークシートのふせん内容をご紹介します

皆さんのご意見はふせんに書込み、各班でワークシートにまとめました。
ここでは、皆さんのご意見を全てご紹介します。

1 班

【鑑賞者としての参加】

鑑賞団体への支援。協力事業展開。／いまさらながら、展示系、美術系をどこまでソフトでカバーできるか。多様なニーズ参加のため。／ジャングル探検→団体、文化人間講座／野外上映会、アウトリーチ

【参加型事業への参加】

年2回定期演奏会で利用している。前日、本番との利用です。今後はリハーサルに大スタジオの利用を予定している。／子どもエンタテインメント集団の育成／小中学校の鑑賞、学校との連携、鑑賞とワークショップを組み合わせた事業／市民創作(ジャンルを問わず)コンテスト応募／周辺大学生とのコラボ、演劇、音楽等／三ツ山さんのおっしゃった、子ども、バリアフリー、シルバーの他に中堅世代の参加機会を確保。→ある意味参加しがたい世代。／イベント等のおまけをワークショップもしくは高校生等に製作を依頼／市民学芸員(美術)の育成／家庭裁判所少年部との連携／箱根方面との連携、芸者さんとか／子ども向けの手作りアニメーションのワークショップ／声優講演(一般募集) サイレント映画に声をつける／日本大学リズムソサエティ(オーケストラ)を定期的(1年に1回)開催／カントリーミュージックの祭典の開催&プロデュース／市民参加型の音楽の祭典(例:NHKのど自慢大会の招聘)／学生対象のワークセミナー

【運営への参加】

レセプション(表方)の育成／裏方スタッフに外国語ができる人材を置く／地場産素材を使った軽食コーナー(ビュッフェ?)の運営／映画や緊急時の時、耳が聞こえない人のために字幕を入れてほしい。／バリアフリー上映、製作／企画...鑑賞者としての要望。告知について、国道1号側だけでなく、お堀端、駅等への告知／町ぐるみの文化サポーター、商店等を巻き込んでイベントを盛り上げる／専門性のある市民。「裏方」ではなく「表方?」で参加／参加(のかたち)への啓蒙

【事業への参加】

製作スタッフの育成(主として)団体などに一定期間、一定空間の全面的プロデュース(カタカナですが)する機会／明確な立場をもった「学校(又はその類)」の付設／まずは大きな事よりも小さな事から。ワークショップ(色々な分野で)。市民講師(うた、ダンス)が行うワークショップを行い、体験(ステージに上がる事)する場を設ける／各種「教室」講座の講師として／小田原文化ハンドブックの発行。市民文化のデータベース／プロの実力のある人に市民として参加してもらおう→登録制。その人たちの参加による市民ホール主催の公演を企画し、子どもたちの教育カリキュラムの一環として公演する。

【管理への参加】

ホールのフリーペーパーの発刊／託児／付属の庭園などの市民団体による管理／清閑亭のお掃除日の様に皆できれいにする日を設ける／舞台技術入門講座→舞台技術のライセンス

【評価への参加】

市民による文化評論活動→公演等の評論活動、評論誌の発行／ベースライン(現状)の確認。観客の市民の参加状態を確かめる(調整?)／文化・芸術に関する市民の意欲、感心を高める努力が先行の問題としてあると思う。／市民(プロ)による講座、アウトリーチなどの実施

【その他の参加】

最終的に管理運営はNPO法人に行っていきたい／作業所の人(障がい者が作っているものetc)の売店を作っていきたい。(障がい者への一般の人の理解)／市民による評価、ピフォー参加実績、アフター参加希望、実現度／高齢者と障害者が一緒にいられる演劇、歌をやって欲しい／ハードは建設してしまうとそこに制約される。ソフトでカバーできるか→どう評価するか／コンセントを2箇所用意して欲しい／人工呼吸器の設置／大ホール、小ホールスタジオ(大中小)店プラス施設の利用率をUPする施策を考える／最高レベルと草の根レベルのコラボ企画(すなわち市民)／サイレントマジョリティーへの普及活動、伝聞／caféをチャレンジショップとして2~3年で運営者を変える。運営者はその後西湘地区で独立してもらいたい／多数と少数とのバランス→多数(ニーズや行政の~だけで割り切れない)／継続的活動を見込める団体の底辺を広げ、次世代育成を更に目指してほしい／アウトリーチ(この言葉はカタカナで好きではないが...)受け身的なニーズにも対応(外部でワークショップやレクチャースクール)／参加機会を時間的に柔軟に(最初にセミナーに出なければならないとかの制限を無くす。)一般論ですが...。／美術展示系が不足するのを事業(ソフト)で解決して欲しい(外で...など)／埋もれた人材に加え→既に出ている。非協力的な人材の説得(考え方をかえてもらう)／歴史と文化の再発見で再発掘→商業との結びつきを、セミナー等／wi-fiを飛ばしてほしい／専門広報誌の発行／文化活動応援補助金制度

2 班

【鑑賞】

1年に1回とか2回、市民にアンケートをとって、こんなアーティストに来てほしい!こんな劇団のお芝居を観たい!と要望を集めて実現できたらいいな。／「友の会」のように会費を納めて、情報特典があり事業にお金をおとす。／市民の比較的容易な参加。鑑賞者として、会員制として財政的にもバックアップする。

【参加型事業】

中学生、高校生のボランティアを育成する→将来のため／小中高大のクラブや部活、サークル活動の支援、レベルの向上

【運営】

早い段階で市民から運営スタッフを募集し、他施設で修行して育てていく。／ホールの使用方法、イベントや情報の伝達方法を考えてほしい。／ホール建設費、使用料は! ? 一般的にはらいやすく、利用しやすくしてほしいと思います。／使用料の件、必要経費等の問題。市、使用者の負担の割合、技術者／市民が運営等に参加するには、行政側にプロのマネジメントスタッフが必要。／既存団体、新しい団体が一緒に使えるための新しいルール作り(ボーダーライン)が必要。／ホールの事業を駅前で掲示できるようにして!! /小田原独自のシステムをつくる／「友の会」のような方法の管理、ホームページなどをつくる。

【管理】

指定管理でも直営でもやる気のあるレベルの高いところを選ぶ。

【評価】

市民参加の比較的簡単な参加。評価への参加、結果を見ることになるが、その後に生かすことにつながる。／イベント後の問題点改善のため、必ずフィードバックが必要。

【情報】

情報の発信の仕方を! /市のホームページに市民会館等の行事予定をのせる。

【課題】

市民会館、けやき等の秋の文化祭等市文連利用状況を説明し、今後の話し合いに活かしたい。／市民参加の前提、行政責任の明確化、支配人の人材確保、有能な専任の運営責任者の確保、財政のバランスシートの提示(いくつかの例)

3 班

【鑑賞者としての参加】

やはり子どもたちに本物をみせたい。オペラ、バレエ、ミュージカル、芝居等／ロングテールの時代、シニア、シルバー層の変化に注目し鑑賞者のニーズを調査したい／年代を意識した企画が必要／学校、学年単位での安価な映画会や劇場会が必要／ホールを主催する公演や催し物をラスカのアークードの大画面で流してほしい。／展示施設、質の高い美術展の開催(年1、2回)／神奈川県展の巡回展を希望。松永記念館は美術館としてはスペースが狭いので、量的に充実したものではない。新展示室は350㎡である程度のものでできる。松永の学芸は新展示室での企画も視野に入れて考えて頂きたい。(ホール展示室の企画、運営にも参画する)／友の会は作るべし／専門家による講座、舞台芸術の歴史、絵画・彫刻の鑑賞の仕方(学芸員による)

【参加型事業への参加】

子どもたちの参加型事業やっています。一般参加もあります。もっと広めていきたい。／ジャンルを超えた一流のアーティストを呼べる事業運営。／芸術文化の発生源。問題提言機関を位置づけ。／ホールがオフの日でも自由に集えるようなスペースがあるといい。管理は市民で／プロのアーティストだけでなく、他分野のアートや、若手による公募展

【運営への参加】

今から何かやりたい。勉強(ワークショップ、研修など)したい／特定の催し事業に協力できると思う(個別事業へのサポート)／アーティストとお客さんをつなぐ役割(中間支援)が文化を広めるために必要だ。／組織運営は資料4のコラーレ倶楽部を参考にしたい／ホール周辺の整備。回遊性を持たせて良いまちづくりに繋げる。商店街とコラボ。／公演のお手伝いをする人が必要。お手伝いする人、文化をサポートする市民。／ボランティアの在り方について話し合う必要がある。／小田原文化サポーターレセプションとして各団体への手助けをしたい。レセ派遣依頼書、チラシ挟み込み代行、影アナ派遣など活動

【事業参加・推進役としての参加】

《子ども対象》ODAWARA わくわくプロジェクト頑張ります。(例:ミュージカルワークショップ、コンサート企画、他)／「太鼓打つ子ら」未来へのメッセージ、子ども WS、アウトリーチ／「千人太鼓」①プロ、②アマ、③市民、三位一体となって心をひとつにして叩く／箱根ジオパークに対する講座を連続して開いてもらいたい(入生田の博物館では地域的に遠いため)。ジオパーク取得のために講座を聴いていますが、一般市民にどのようなものかを広く知ってもらえたらと思います。／子どもたちの夢をはぐむ事業創成

《全体》様々なジャンルの文化創造ワークショップを推進したい。／近隣の美術館との交流、連携を図る。長期的に行えるようきちんとシステムをつくる。／小田原らしい催し、企画。地元のアーティスト育成、音楽教育は子どもの育成(例えば少年少女合唱団)

【施設の管理運営】

管理運営は責任が重い位置である。このあたりの資格とは?

【その他】

劇場法の勉強会を提案したい。新ホールを計画するに当たり委員全員のレベル合わせのため。

管理運営計画市民委員会 今後のスケジュール

開催日時	場 所	テーマ(予定)
シンポジウム (6/17) * 終了		
第1回 * 終了	7月22日(日) 10:00~12:30	市役所7F 大会議室 オリエンテーション 市民参加
第2回	8月5日(日) 10:00~12:30	市役所7F 大会議室 事業計画
先進事例視察 (8月24日) 神奈川芸術劇場 (KAAT) ・横浜市磯子区民文化センター杉田劇場		
第3回	9月9日(日) 10:00~12:30	市役所7F 大会議室 運営
第4回	10月21日(日) 10:00~12:30	市役所7F 大会議室 取りまとめ
市民委員と専門委員の意見交換会 (11月予定)		